

ケロちゃん通信

2019年 6月 第48号



ながおか医療生協
あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1

電話番号 0258-36-5810

<http://www.nagaoka-iryousaikyou.jp/>

診療案内

一般診療の受付開始は午前8時30分、午後15時30分からです。

☆一般診療

直接来院の場合は、診療時間内に受診してください。
予約希望の場合は、前日0:00からスマホ、携帯、PCより予約システムでご予約ください。
付き添いのお母さん等が体調不良の時も、お気軽にご相談ください。
緊急の場合や、特別な相談がある場合には、まずお電話ください。

☆**予防接種、乳児健診**：スマホ、携帯、PCより予約システムでご予約ください（2ヶ月後の予約までできます）。今まで通り、窓口または電話でご予約もできます。

☆専門外来

①**発達外来(第1金・第3火13:30~15:30、その他の火・金13:00予約制)**
小児神経専門医による診療を行っています。言葉が遅い、コミュニケーションがとりづらい、落ち着きがない、かんしゃくを起こしやすい等の発達障害をご心配されている方、ひきつけ、チック、夜尿症などの発達や神経に関する心配がある方は、お気軽にご相談ください。
②**アレルギー外来(第1金 9:30~11:20 13:40~15:20、第3金 9:30~11:20 予約制)**
アレルギー専門医による診療を行っています。食物アレルギー、ぜんそく、アトピー性皮膚炎、花粉症等で心配がある方は、ご相談ください。

☆発達外来、アレルギー外来受診希望の場合には、電話で予約をお願いいたします。（ネット予約はできません）

☆生協こどもクリニックとも協力して診療を行っています。病児保育室「すこやか」を利用希望の方は、当院を窓口にして利用することもできます。

☆ そろそろ梅雨の季節です。蒸し暑い日もあれば、肌寒い日もあります。まだインフルエンザBの小流行も見られますが、ヘルパンギーナ、手足口病などの夏かぜも流行る季節です。雨で屋外活動がしにくい季節ではありますが、体調にお気を付けください。

☆ 知能検査(WISC-IV)をようやく当院でも実施できるようになりました。知的機能の評価および各種書類申請で必要な場合はご相談ください。

☆ 少子化が進み、日本の子どもの数は38年前から減少しつづけ、当時の半分以下になったそうです。長岡市でも毎年1-2%ずつ子どもの数は減少しています。予防接種もたくさん受けるようになり、感染症も減少しています。入院が必要になるような重症の喘息や胃腸炎の患者さんは明らかに減りました。細菌性髄膜炎の患者さんも、ヒブ、肺炎球菌ワクチンのおかげでほとんどなくなりました。抗生薬、抗ヒスタミン薬、解熱剤の使い方も大きく変わりました。一方、アレルギーの患者さんや、集団生活にうまく適応できないお子さんは決して減ってはいません。

科学も進歩し、診断の多くはAIでできる日も近いかもしれません。これから、地域での小児科クリニックの役割も今までとは違うものになると思います。地域の皆様のお役にたてるように頑張っていきたいとおもいます。

6月1日(土曜日)の診療は、都合により11:00までとさせていただきます。受付は、10:45までとなりますのでご協力よろしくお願ひします。

6月の診療予定
本間医師 (7日午前・午後 21日午前)



ジアンノッティ症候群

☆ 1955年に Gianotti という人がはじめて報告しました。あまり聞きなれない病名かもしれませんが、稀な病気ではなく日常的によく見る病気です。特に春先に多い疾患です。ただ迅速診断ができないため、疑いはあっても確定診断されないことも多くりんご病、接触性皮膚炎、とびひ、砂かぶれ様湿疹などと区別が難しい場合もあります。

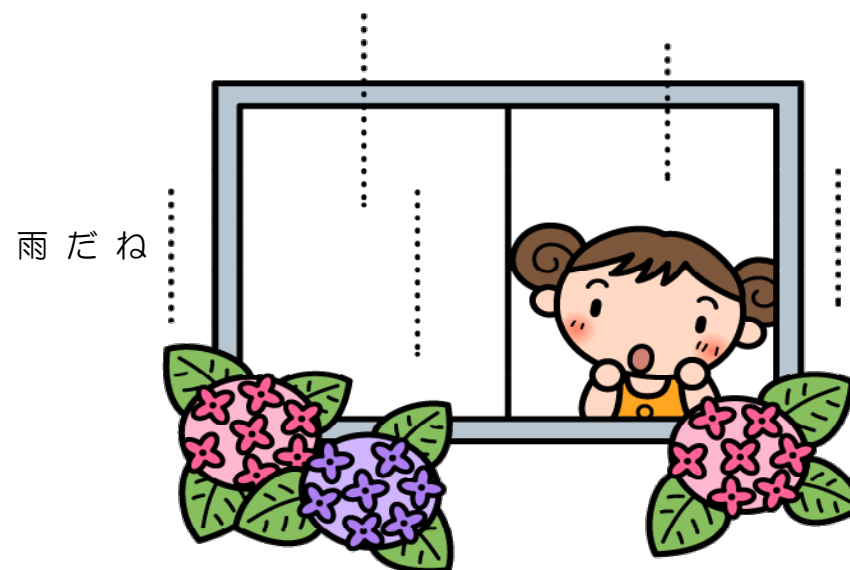
☆ 症状：生後6カ月から5歳くらいに発症しますが、1-3歳に多いとされます。発疹は、顔（特に頬）、四肢伸側（手背、ひじ、足背、ひざ）、臀部などに左右対称性に生じる3-4mmの小丘疹です。下肢から上のほうに広がっていきますが、胸腹部、ひじ、ひざの裏側（屈側）には通常、発疹はでません。掻いたあとに一致して皮疹が出現するKobner現象がみられます。かゆみを伴うこともあります。軽度なことが多いです。発熱、リンパ節腫脹を伴うこともあります。通常1カ月程度で自然に治癒します。数週間、発疹が続くこともあります。心配はいりません。

☆ 主にウイルス感染に伴って発症します。EBウイルスによるものももっとも多いですが、様々なウイルス（サイトメガロウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、アデノウイルス等）で発症します。まれにワクチン接種後に発症した症例も報告されています。あくまでも皮膚症状による症状診断名なので原因は様々です。

☆ EBウイルスの初感染の観点からいうと、3歳ころまではジアンノッティ症候群として発症し、それ以降は伝染性単核球症（高熱、扁桃炎、発疹、リンパ節腫脹、肝機能障害など）として発症することが多いようです。肝炎を伴う場合にはB型肝炎の初感染（ジアンノッティ病）であることが多く、家族内感染も疑われます。

☆ 上記症状より臨床診断します。原因精査希望の場合には、肝機能、ウイルス抗体等の検査を行います。

☆ 特別な治療法はありませんが、ペニシリン系の抗生剤は発疹を悪化させる可能性があるため注意が必要です。かゆみの強い場合には抗ヒスタミン剤を使用します。



雨だね